

日産のCSR

日産は自らの持続的な利益ある成長はもとより、社会全体の持続的発展に貢献したいと考えています。そのために、幅広いステークホルダーの声に耳を傾け、協力し合いながら、社会からの要請を企業活動に取り込む努力を続けています。

日産は「人々の生活を豊かに」というビジョンを掲げ、グローバルなあらゆる事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献していくことを目指しています。そして、独自性に溢れ、革新的なクルマやサービスを創造し、その目に見える優れた価値を、ルノーとの提携のもとにすべてのステークホルダーに提供することが、日産のミッションです。

ビジョン・ミッションの達成に向けては、日産の持続的な利益ある成長と社会の持続的な発展という2つの方向性を常に一致させた経営を行うことが不可欠です。そのためには、CSRの概念を経営に取り込むことが重要であり、CSRを強化することでお客様やビジネスパートナーなどさまざまなステークホルダーとの信頼関係の構築につなげていきたいと考えています。

「日産の利益ある成長」と「社会の持続的な発展」をともに実現



私たちのビジョン 人々の生活を豊かに

私たちのミッション 私たち日産は、独自性に溢れ、革新的なクルマやサービスを創造し、その目に見える優れた価値を、すべてのステークホルダーに提供します。それらはルノーとの提携のもとに行っていきます。

私たちの行動指針 日産ウェイ「すべては一人ひとりの意欲から始まる」。焦点はお客様、原動力は価値創造、成功の指標は利益です。

- 私たちのCSR方針**
- 日産のあらゆる活動は、倫理的行動、高い透明性に裏打ちされたコーポレートガバナンス(企業統治)、そして多様性の尊重のうえに成り立っています。
 - 私たちが目指すのは、企業として持続的な利益ある成長を追求すると同時に、持続可能なモビリティと社会の実現に向けて積極的に貢献していくことです。
 - 世界中のステークホルダーの声に耳を傾け、協力し合うことで、信頼と機会を生み出し、価値を創造し続けていきます。

取り組みの柱

日産は、自動車メーカーとして特に力を入れるべき取り組みとして「CSR重点8分野」を定めています。①環境②安全③品質④経済的貢献⑤従業員⑥バリューチェーン⑦社会的貢献⑧コーポレートガバナンス・内部統制の8分野は、いずれも私たちが社会から信頼され、必要とされる企業であり続けるために欠かせない要素です。同時に日産ならではの付加価値を提供することで、社会とのより強い信頼関係を築くことができると考えています。

日産のCSR重点8分野

<p>コーポレートガバナンス・内部統制</p> <p>法令と会社のルールを順守し、公平・公正で高い透明性を持った効率的な事業活動を目指します。</p>	<p>環境</p> <p>持続可能なモビリティ社会の実現に向けて、クルマのライフサイクルにおける環境依存・負荷を低減し、実効性のある商品・技術を拡大することで、社会の変革をリードしていきます。</p>	<p>安全</p> <p>技術の革新に加え、安全推進活動に積極的に取り組み、クルマ社会をより安全なものにしています。</p>
<p>経済的貢献</p> <p>持続的な利益ある成長を目指します。そして社会全体の経済的発展にも貢献します。</p>	<p>NISSAN</p>	
<p>品質</p> <p>世界中でトップレベルの製品やサービスをお客さまにお届けします。</p>	<p>従業員</p> <p>多様な人材がグローバルビジネスを通して自らの成長を実感できる、魅力的な組織づくりを目指します。</p>	<p>バリューチェーン</p> <p>サプライチェーンのあらゆる段階において、倫理的で環境に配慮した行動がなされるよう促進していきます。</p>
		<p>社会貢献</p> <p>「教育への支援」「環境への配慮」「人道支援」の3つの重点分野を中心に、企業市民として果たすべき社会貢献活動に取り組めます。</p>

活動方針

CSRに根ざした経営を目指すうえで、日産は3つのバランスを重視しています。1つ目は「短期視点と長期視点のバランス」です。ビジネスにはさまざまな課題がありますが、常に短期的・長期的視点の両方から経営判断を行う必要があります。2つ目は「企業の成長と社会の発展のバランス」です。自社の利益のみを追い求めるのではなく、社会からの声に耳を傾け、ともに持続的な発展を目指すという考え方です。3つ目は「企業が提供する価値のステークホルダー間のバランス」です。特定のステークホルダーに偏ることなく、あらゆるステークホルダーに同等の価値を提供できるよう配慮するということです。日産では、CSRとはさまざまなビジネスの領域において、これら3つのバランスを追求するプロセスマネジメントツールであると捉えています。

日産が追求する3つのバランス

1. 短期視点と長期視点のバランス	2. 企業の成長と社会の発展のバランス	3. 企業が提供する価値のステークホルダー間のバランス
-------------------	---------------------	-----------------------------

2011年10月には日産のCSRの総称として「ブルーシチズンシップ (Blue Citizenship)」を再定義しました。日産は、中期経営計画「日産パワー88」を達成することでグローバルな成長を果たすとともに、ブルーシチズンシップを通して社会からの期待にしっかりと応えていく会社を目指します。



「ブルーシチズンシップ」に関する詳しい情報は、下記のウェブサイトに記載しています。併せてご覧ください。
<http://www.nissan-global.com/JP/BLUECITIZENSHIP/>

推進体制

2011年度から、CSR部はカルロス ゴーンCEOの直轄組織となり、組織上もCSRを経営の中心に位置づけることになりました。

社内横断的な管理は、重点分野に関係する部門の部長級管理職約20名からなる「CSRステアリングコミッティ (CSR運営委員会)」が担当しています。定期的を実施する会議を通して、各分野の進捗確認および目標の再設定などを行います。2012年4月に開催したCSRステアリングコミッティでは、カルロス ゴーンCEOと志賀俊之COOを議長とし、重点分野に関係する部門の執行役員および部次長が出席のもと、2011年度の振り返りと2012年の設置目標を報告・承認しました。

CSRスコアカード

年間を通じたCSR推進の管理ツールとして、日産が追求する3つのバランスを「見える化」した「CSRスコアカード」を作成しています。

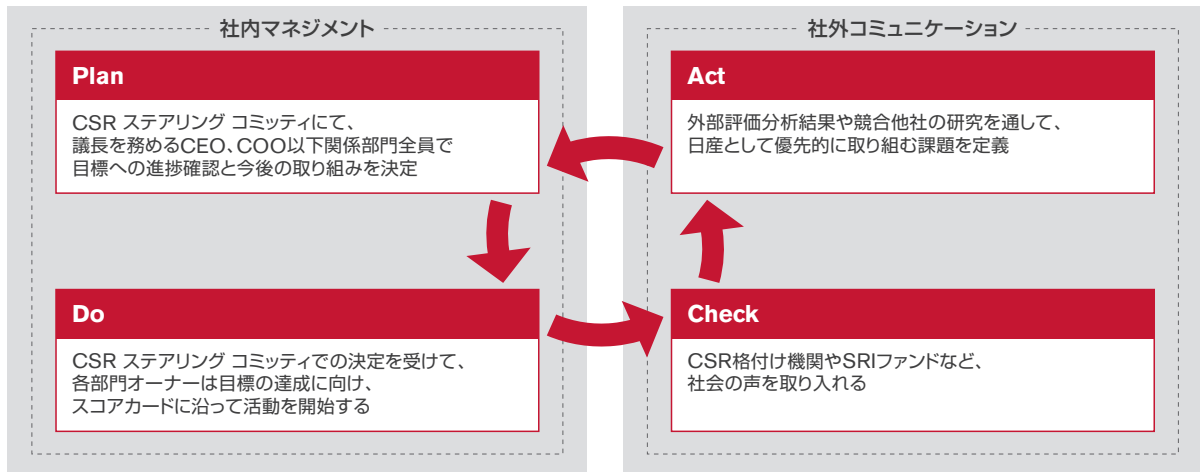
スコアカードでは、縦軸を重点8分野とし、日産が提供している価値のステークホルダー間のバランスをチェックします。横軸では、日産の成長と社会の発展のバランスを追求していくことを狙いに、「日産が現在実行している事業活動の価値観や管理指標」と「企業に対する社会からの要請」、そしてその間に「中長期にどう行動していくべきかを想定した管理指標」を記載しています。横軸と縦軸の両軸を踏まえ、全体として「短期視点と長期視点のバランス」を追求していきます。CSRスコアカードは実績評価も含めて毎年内容を更新し、公表しています。(最新のスコアカードは71～75ページをご覧ください)

ステークホルダーとのコミュニケーション

日産は、社会の声を企業活動に取り込み、私たちの企業活動と社会的要請のベクトルを一致させた経営を目指しています。ステークホルダーからより多くの声を取り入れるために、「社会の声に耳を傾け、オポチュニティとリスクの芽を見出す」活動を行っており、その骨格は、以下のPDCA (Plan-Do-Check-Act) で構成されています。

2011年3月に発生した東日本大震災の際には、被災地で支援活動を行うNPO・NGO団体と現地ニーズに関するヒアリングを実施。車両提供などの適切なサポートが行えるよう、話し合いを重ねました。

日産のCSRを推進するPDCAサイクル



日産の社内浸透策

日産では従来、本レポートやインターネットを主な媒体として、社外はもとより社内へのコミュニケーションにも力を入れてきました。従業員一人ひとりに自分とCSRとの接点は何であるかを考えてもらい、具体的な行動につなげてもらえるようCSRの情報発信を強化しています。

2010年12月には日産のCSRを分かりやすく解説した「日産CSRハンドブック2010」を発行し、イントラネット、ウェブサイトに掲載。日本国内では全従業員に冊子を配布しました。また、部門・部署単位でのCSR勉強会「CSRキャラバン」を実施し、CSRについての理解を深める機会を設けているほか、2012年度から、新人研修および新任課長研修においてもCSRに関するセッションを実施しています。従業員向けポータルサイトである「WIN」*の中の「CSRヘッドライン」というサイトでは、自社の活動のほか、CSR全般に関するさまざまな情報を掲載しています。

* WIN : Workforce Integration @ Nissan

「国連グローバル・コンパクト」へ参加

日産自動車は、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト」に、2004年から参加しています。「国連グローバル・コンパクト」は、国連のコフィー アナン事務総長(当時)が1999年に世界経済フォーラム(ダボス会議)で提唱した、企業による自主行動原則です。

日産では、下記10原則に基づくさまざまな活動を一層強化するために、CSRマネジメントを進めています。



国連グローバル・コンパクトの原則

人権

- 原則1：企業はその影響の及び範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する。
- 原則2：人権侵害に加担しない。

労働基準

- 原則3：組合結成の自由と団体交渉の権利を実効あるものにする。
- 原則4：あらゆる形態の強制労働を排除する。
- 原則5：児童労働を実効的に廃止する。
- 原則6：雇用と職業に関する差別を撤廃する。

環境

- 原則7：環境問題の予防的なアプローチを支持する。
- 原則8：環境に関して一層の責任を担うためのイニシアチブをとる。
- 原則9：環境にやさしい技術の開発と普及を促進する。

腐敗防止

- 原則10：強要と賄賂を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む。

国連グローバル・コンパクトに関する詳しい情報は、下記の公式ウェブサイトをご覧ください。

- ▶ <http://www.unglobalcompact.org/>
- ▶ http://www.ungcjp.org/aboutgc/glo_01.html

「持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)」への参画

日産は、「持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)」に加盟しています。WBCSDは、「経済成長」「環境保全」「社会的公平」という3本の柱による持続可能な発展に対して、共有の決意を持つ国際的な企業の連合体です。現在、世界35カ国を超える国から、20以上の業種にわたる約200の企業が参加しています。産業界の貢献を実現するためにWBCSDが実行すべき目標は以下の通りです。

- ・産業界におけるリーダーシップ — 持続可能な発展に向け産業界を導く存在となること
- ・政策策定 — 持続可能な発展に産業界が貢献するための枠組みの構築を目指し、政策決定に参画すること
- ・ビジネス・ケースの実践 — 持続可能な発展に向けた産業界としての取り組みを策定、実践すること
- ・ベスト・プラクティスの提示 — 持続可能な発展のための問題解決に対する産業界の進捗を提示し、WBCSDメンバー間でその先進的な事例を共有すること
- ・グローバルな展開 — 開発途上国の持続可能な将来に貢献すること



持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)に関する詳しい情報は、下記の公式ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.wbcsd.org>

A Message from the Officer in Charge of CSR Activities

CSR担当からのメッセージ

「ブルーシチズンシップ」の旗のもと、社会的課題に意欲的に取り組む

CSR部
部長
井狩 倫子



2011年度は企業が多くの困難に直面した1年でした。日産も例外ではありませんでしたが、厳しい状況においても新中期経営計画と中期環境行動計画を発表するなど、ビジネスとCSR両面において実りある1年だったと振り返ります。CEO直轄となったCSR部を中心に、グローバル連携を強化するとともに、社内外の関係者と対話を続けながらさまざまな活動に着手しました。

また2011年度は「ブルーシチズンシップ」という日産のCSRの総称を再定義し、これを通して従業員へのメッセージ発信も多々行ったことで、CSRという言葉の社内認知度も大きく向上させることができました。日産ウェイに記している「すべては一人ひとりの意欲から始まる」を胸に、今後もさまざまな社会的課題に意欲的に取り組んでいきたいと考えています。